

東日本大震災に関する活動の記録

医学系研究科保健学専攻 緩和ケア看護学分野

震災当時の本研究室の構成メンバーは、教員 2 名(教授宮下、助教佐藤)、大学院生 1 名(修士課程)、学部生 21 名(3・4 年の卒業研究生)、事務 2 名であり、教員と大学院生は看護師・保健師の有資格者であった。少ない人員ではあるが、教員・大学院生を中心として、それぞれ震災復興・被災者支援を展開した。ここにその主な活動の記録を記す。

1. 震災直後からの 5 日間

震災直後からの最初の 5 日間では、研究室メンバーそれぞれが独自に支援活動を展開した。

まず、最初に支援を行ったのは大学病院であった。震災時、大学病院で人事交流研修を実施していた教員はただちに研修を中止し、研修病棟での看護業務の支援にあたった。震災後から大学病院はトリアージポストでの救急診療や石巻・気仙沼地区から搬送される患者の入院加療を行っていたが、透析、酸素療法などのために病棟のみならず、外来化学療法センター、血液浄化療法部をフル活用していた。その際に夜勤看護師の不足があり、震災翌日から計 3 回の夜勤支援を行った。また、震災後は停電のため病院内の物品搬送は手搬送であるなど通常業務に支障をきたしていた。学生ボランティアを受け入れており、卒業研究生の有志が参加した。

被災学生の支援として、震災直後から研究室メンバーの安否確認を行った。春休み期間であったことから仙台以外の地で被災した学生もいたが、全員の安否が確認された。震災当日の夜には、教員が大学最寄りの避難所である星陵体育館を訪れ、避難学生の安否や困っていることがないかを確認した。

また、被災地には医薬品を含む支援物資を持参した少人数の医療支援ボランティア・チームが全国から集まり始めていた。大学院生はその 1 つのチームに参加し、石巻での被災地支援活動に従事した。

2. 震災 6 日目から 3 月末まで

震災 6 日目から 3 月末までの期間では、看護学コースは大学病院等と連携してニーズに応じた支援を展開して支援活動を展開した。本研究室メンバーは下記の活動に参加した。

大学病院はこれまで被災地に医師を派遣していたが、震災 6 日目より医師・看護師・薬剤師の多職種チームによる避難所支援が開始され、看護学コースは看護師派遣の要請を受けた。石巻市・岩沼市の避難所での医療支援に同行し医師・薬剤師などと共に健康相談・医療支援を行った。

日数が経つにつれ、大学病院には被災地から多くの患者が転院してきた。高齢者などでは不安が強いもの、不穏を呈するものなどがあり、見守りや介助が必要な患者も多かった。病棟看護師の疲労も大きかったため、教員はローテーションを組み人員が不足気味の日勤の終わりから夜勤帯にかけて病棟で食事介助などの看護支援を行った。

また、福島原発事故の影響で被ばくが疑われる者に対する健康相談・必要時除染を放射線技術科学コースが実施していたため、その問診の補助を行った。

3. 3月末から4月末まで

これまでは大学病院等と連携したニーズに応じた支援を展開していたが、震災から2週間程が経過し、看護学コースとして専門性を生かした系統的な独自支援を実施する機運が高まった。3月末から4月末までの期間では、看護学コースが直接行う被災地支援として、保健師活動支援を展開した。研究室メンバーは、保健師活動支援に中心的メンバーとして参加し、特に宮下は看護学コースの被災地支援のコーディネーターの役割も担った。

県庁等で情報収集をした結果、石巻市の被災規模が大きく、東部保健福祉事務所(以下、保健所)が津波被害のために水没し活動拠点を失ったこともあり、連絡もままならぬ状態であることが判明した。そこで、先遣隊が保健所(当時石巻西高校の一部教室を借りて活動していた)・石巻市役所に情報収集に赴いたところ、ちょうど保健師による全戸訪問を開始する段階であったため、各自治体からの支援チームと同様に東北大学の看護学コースで1チーム作成しての「全戸訪問の支援」を行った。全戸訪問の支援は、3/30から4/22まで約1か月間毎日実施し、大学からは教員を中心に大学院生、他大学教員も含め平均3人程度のチームで1地区を担当した。全戸訪問では、安否確認、親類等宅への避難者の把握を行い、被災者の話を傾聴しながら、健康相談、医療情報の提供、要介護者の抽出、メンタルケアが必要な住民の抽出などを実施した。今後の継続的支援が必要な住民は毎日3~10名程度であり、詳細な情報を石巻市の保健師に引き継いだ。

また、県南部の山元町では東北大学本部に学生ボランティアおよび医療派遣の要請があった。医療派遣に関しては避難所・救護所の衛生管理・健康相談に関して毎日看護学コースの教員数名と学生2名を派遣するようローテーションを組み、4/6から4/22まで支援を行った。宮下はこの医療派遣の看護学コースのコーディネーターの役割を担った。

(文責:佐藤一樹)

東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野

教授 宮下光令

所在場所 :医学部保健学科 B棟 314号室

連絡先 :miya@med.tohoku.ac.jp